

1 背景

現在の丸ノ内中学校の校舎は、文部省（当時）が昭和25年に、学校施設を全国一定レベルに整備できるよう作成した、「鉄筋コンクリート造の標準設計」を基に設計されています。

この標準設計では、教育の量的拡大に対応するため、片廊下形式の校舎が標準として示され、全国の先駆けとして、丸ノ内中学校がモデルスクールとなった経過があります。

建築後67年以上が経過し、老朽化が進んでいるなかで、生徒等が安心・安全に利用できる学校施設を整備することとしました。

3 基本計画の方針

(1) 教育環境と背景

※令和4年3月 文科省調査研究協力者会議報告（抜粋）

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

「未来志向」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造

新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮

柔軟で創造的な学習空間

地域や社会とともに創造する共創空間



2 改築校の概要

教室の机が旧規格より一回り大きい新JIS規格になったことや一人一台端末の導入に伴い、適切な生徒机間の離隔の確保が求められ、当時の平均的な広さの教室は手狭な環境といえます。

渡り廊下は、降雨・降雪を防ぐため、開放渡り廊下の改善が必要となっています。トイレについては、洋式化や快適な温度調整の要望がありました。

敷地は運動場、校舎、体育館の3つの地盤レベルに分かれ、法面や擁壁が設置されています。校舎は北側に集約され、体育館は北東に位置します。

体育館や柔剣道場、プールは建築後の年数が浅く、健全であることから改築の対象から除外しています。



※令和4年2月 松本市教育大綱（抜粋）

子どもが主人公学都松本のシンカ

多様性

一人ひとりの個性や能力を尊重した多様な学び

子どもに対する期待

- ・自分の可能性を信じること
- ・社会・世界や価値観の多様さを理解しながら、共感や思いやりを持って他者と向き合うこと

創造性

未来を切り拓き、新たな価値を生み出す創造的な学び

子どもに対する期待

- ・様々な体験を積み重ねることで、感性を磨き、自らを表現し、他者に伝えていくこと
- ・失敗を恐れずいろいろなことに挑戦し、新たな価値を生み出していくこと

主体性

自己や他者と対話しながら、社会に参画する主体的な学び

子どもに対する期待

- ・自分の趣味・関心や好奇心、「なぜだろう」という疑問を持つことを大切にし、自分の学びを深めていくこと
- ・地球の過去・現在・未来を広い視野で捉え直し、他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手として物事に関わること

(2) 検討の経過

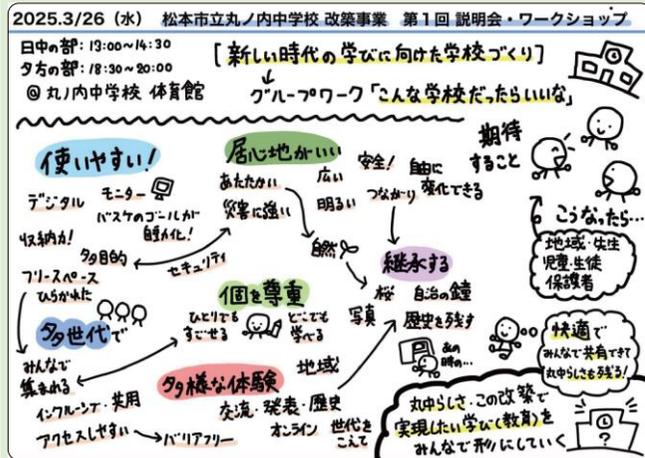
第1回ワークショップ

(1) 開催概要

日時：令和7年3月26日(水)
(昼) 13:00~14:30
(夕) 18:30~20:00
場所：松本市立丸ノ内中学校 体育館
参加人数：生徒54人、教職員9人、一般34人
合計88人

(2) 実施内容

- 新しい学校の事例紹介
テーマ：これからの学校を考えよう~
こんな学校だったらいいな



快適でみんなで共有
できて丸中らしさも残る!

こんな学校だったらいいな

- 使いやすい
居心地がいい
多様な体験
多世代で
個を尊重
継承する

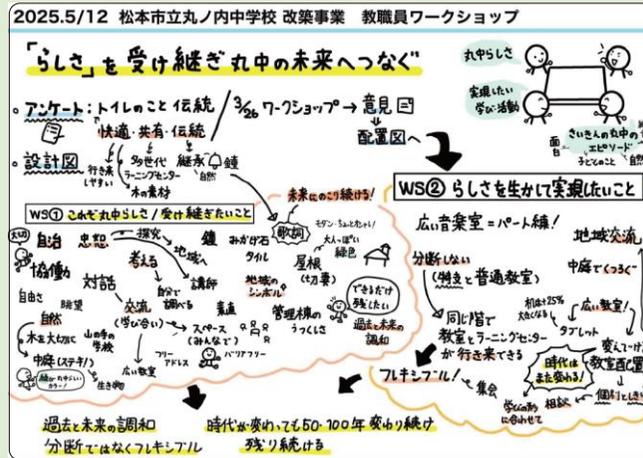
教職員ワークショップ

(1) 開催概要

日時：令和7年5月12日(月)
15:15~16:15
場所：松本市立丸ノ内中学校 図書館
参加人数：教職員 13人

(2) 実施内容

- テーマ：「これぞ丸中らしさ」から新しい学びへ
テーマ：平面案から「らしさ」を生かして実現
したいこと



丸中「らしさ」とは?

- 自治
忠恕
自然
交流
地域のシンボル
過去と未来の調和

「らしさ」をいかして実現したいこと

- 分断しない
交流
くつろぐ
学びの形に合わせて
フレキシブル
時代はまた変わる

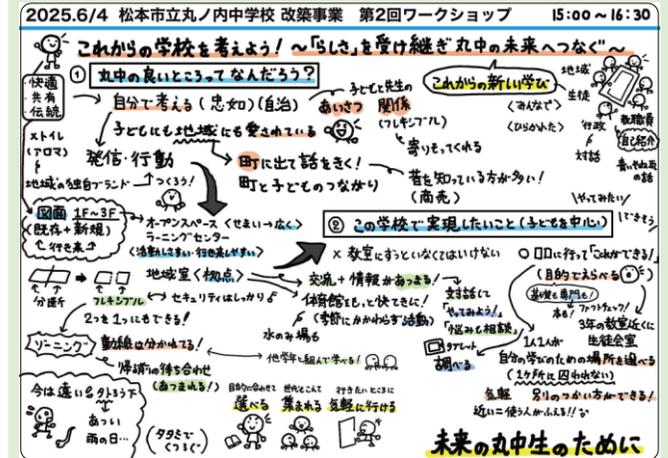
第2回ワークショップ

(1) 開催概要

日時：令和7年6月4日(水)
15:00~16:30
場所：松本市立丸ノ内中学校 体育館
参加人数：生徒 15人、教職員 2人、
一般等 19人、合計 36人

(2) 実施内容

- テーマ：丸中の良いところってなんだろう?
テーマ：この学校で実現したいこと



丸中の良いところってなんだろう?

- 自分で考える
子どもにも地域にも愛されている

この学校で実現したいこと/活動/学習

- 個別の学びができる
自治の鐘...シンボル
学びたい時に学びたいように学べる
1人1人が...
フレキシブルに分割したり広く使える
地域の人に来て一緒に学べる

(3) 基本コンセプト・基本方針

基本コンセプト

「あゆみ」を受け継ぎ 未来へつなぐ

基本方針（抜粋）

1 自分の「学びたい」を実現できる学校

- 一人ひとりの個性に応じた学びや地域探究、異学年による学習など、多様な学びを柔軟にデザインできる環境の実現
- 学びの核となる施設を校舎の中心に配置
- 「インクルーシブ教育システム」の理念を踏まえた学習環境を整備

2 未来の学びを創造できる学校

- あらゆる空間が学びや交流の場となる空間づくり
- 学習活動や学習集団の変化に対応できる柔軟性のある空間づくり
- 変化し続ける未来の学びに対応できる可変性のある空間づくり

3 地域と共に歩み続ける学校

- 地域と学校が培ってきた歴史を継承し、文化を育む交流拠点
- 地域の防災拠点としてだけでなく、地域や民間と連携した多世代交流拠点
- 地域の景観と調和した校舎・環境づくり

4 改築事業の概要

(1) 建物配置

- ア 既存の高低差（擁壁位置）を活かす、まとまりある校舎配置
- イ 工事中もグラウンドを継続利用できる配置計画
- ウ 見通しのよいプロムナードや移動しやすい屋外移動動線
- エ 急傾斜を避けた安全な配置
- オ 将来の体育館改築を見据えた配置計画



(2) 平面ゾーニング

3階



2階



1階

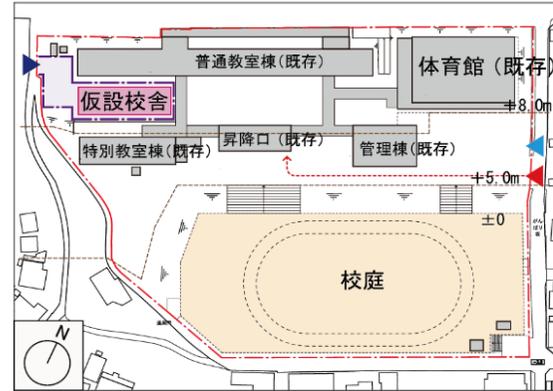


凡例

- 管理諸室（職員室・保健室・更衣室・配膳室等）
- 教室（普通教室・少人数教室・特別支援教室等）
- 特別教室（理科室・技術室・美術室・音楽室等）
- 地域・メモリアル
- オープンスペース・ラウンジ
- 体育館
- 地域開放ゾーン
- ▲ 生徒の出入口
- ▲ 職員出入口
- ▲ 地域の出入口

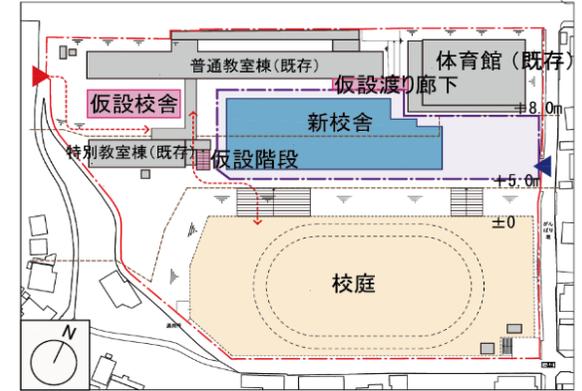
(3) 建て替えステップ図（抜粋）

STEP1 仮設校舎建設



既存教室棟の間に仮設校舎（2階建想定）を建設します。

STEP3 新校舎建設



工事中の安全性に配慮し、Step2と同じ工事エリアで新校舎を建設します。

(4) 工程表

	2025		2026		2027		2028		2029		2030		2031		2032	
	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度
プロポーザル 方式業者選定	業者選定プロポーザル															
基本計画 基本設計	基本計画・基本設計 (約13か月)															
実施設計			実施設計 (約18か月)													
埋蔵文化財調査				埋蔵文化財調査 (約4か月)		埋蔵文化財調査 (約8か月)										
仮設校舎				仮設校舎建設 (約6か月)										仮設校舎解体 (約3か月)		
工事	校舎	管理・特別教室・普通教室棟工事 (約42か月) ※既存解体も含む														事業完了
		屋外 運動場	屋外整備 (約14か月) ※体育館+駐車場													

※校舎の工事期間には、管理棟等の既存校舎の解体期間を含みます。